永住型児童生徒の特質を踏まえたカリキュラムの枠組み

カルダー淑子・岩本友子・モイヤー康子
（プリンストン日本語学校）

第4回継承語教師養成ワークショップ

継承語科研主催・MHB研究会共催

東京・桜美林大学

2010年8月5日

世界各地の補習校の現状

- 海外に住む学齢期の子ども：約61,500人（10年で約2割増加）
  補習校の在籍者数：約16,700人（減少傾向）
  （在住者中の補習校生：北米54%、アジア4%、欧州31%
  （2009年4月現在：文科省）
- 補習校生徒の言語背景・通学目的の多様化
  現地語優位・永住生徒の増加
  文科省指導要領に不適応・学習効果の上がらない生徒
  －＞ **<u>補習校における永住生カリキュラムの必要性</u>**
- コース作成上の問題点
  カリキュラム作成の基準（文科省準拠・JFL型・独自基準）
  コース編成・クラス編成（独立コースか補強コースか）
  限られた授業時間（年間約４０週・各週３－５校時の制約）
  教師の養成（言語教育の背景を持つ人材は限られている）
  校内の保護者・教師の理解のカベを破ることが困難

長期在住者・継承語学習者の言語的・心理的傾向

<u>言語面</u>

- 低学年から現地校へ通学－＞バイリンガル学習者である
- 渡航年齢・在外年数により個人差が大きい
- 母語の力と知的発達が一致していない
- 家庭中心の母語使用（学校や社会での使用経験が不足）
- 四技能のばらつきが大きい（読み・書きに弱い）
- 言葉の背景にある母語社会に関する知識の不足

<u>心理面</u>

- 継承語・主流言語への反発と接近・学習動機の揺れ
- アイデンティティーと継承言語の強い関係

<u>社会・生活面</u>

- 言葉の多様性・文化の多様性の中で生きる子どもたち
- 家庭や日本語コミュニティーのサポートが期待できる

カリキュラム編成：学習者の特質を踏まえた対応策

- <u>日本語による総合的な体験</u>

  多様な教科の統合学習 (Integrated Approach)

  プロジェクト学習の重視

  国語教科書の多面的な利用

  多様なリソース・メディアの使用 （Authentic教材）

- <u>アイデンティーティーと継承言語の関係付け</u>

  学習者主体の授業形態（Learner Oriented Approach)

  トピックや学習方法について生徒に選択肢を与える

  価値観の多様性を認める

  ー＞ **<u>自分で考える力・自尊感覚の涵養</u>**

(Garcia, 2009)

クラス編成と教授法：言語面での配慮

- 4技能のアンバランス・語彙/表現力の不足に対して
  読み・書き能力の重視 （家庭での基本習得の上に）
  目標値は知力に合わせて高く設定
  （低学年・場面依存度高－＞高学年・依存度低）
- 同年齢でも個人差が大きい言語力への対応
  マルチエイジ・クラス（言語力別と年齢別の授業構成）
  個に応じて教材・学習法・宿題の選択肢を増やす
- バイリンガル学習者の強みを生かす（Biliteracy の涵養）
  現地校で得た知識の転用（年齢により英文教材使用）
- 言語面の背景にある知識と経験の不足に対して
  適切なスカフォールディング

事例報告：プリンストン日本語学校

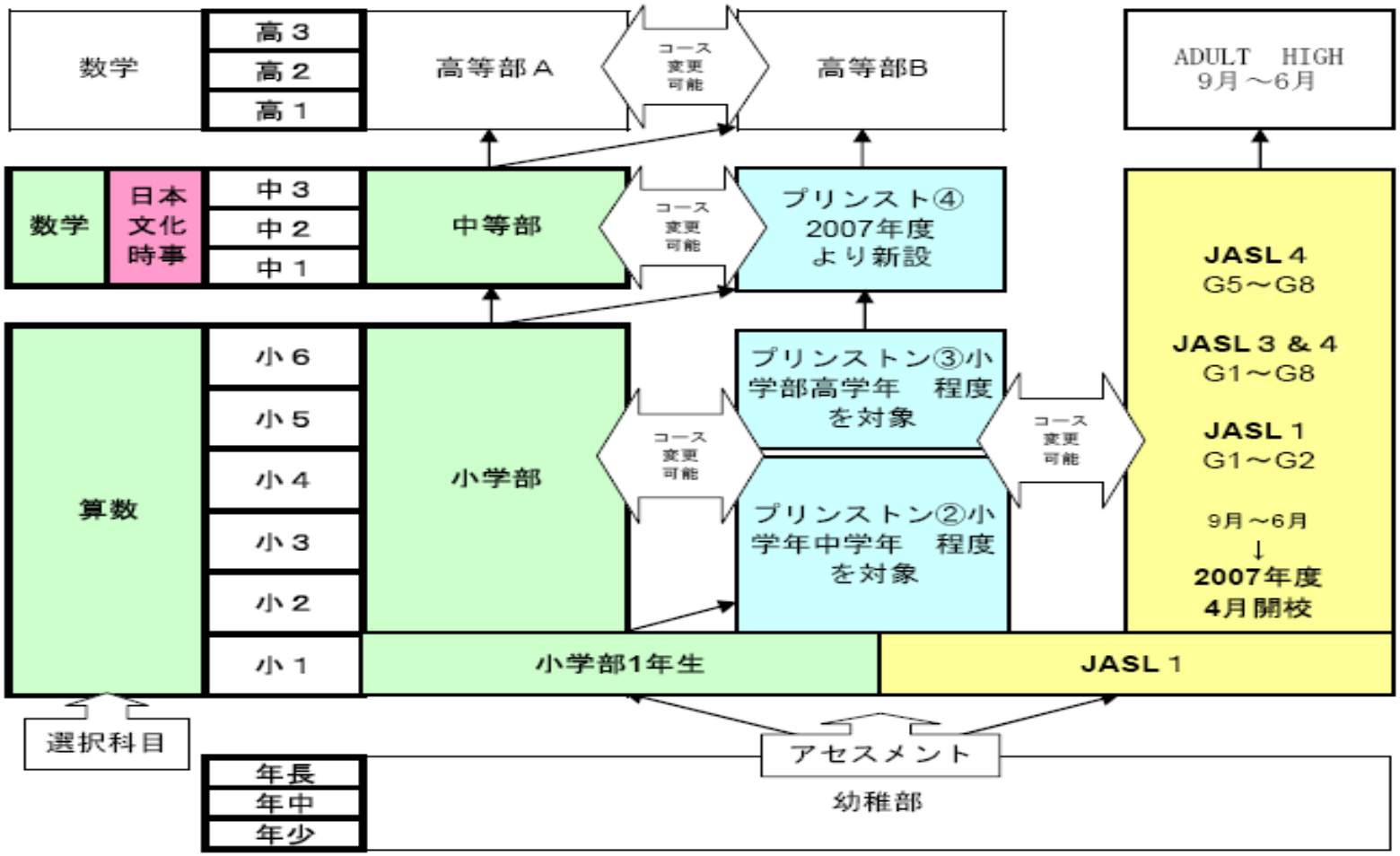
- 生徒数：2010年3月現在・約300名（教員30名）
- ニュージャージー中央部・競合する日本語教育機関がない
- 日系大企業の集中がない・独立型の邦人が多い

- 目的別3コースの併設（あらゆる学習者のニーズに対応）
  国語コース（文科省準拠・1980年から）
  JFLコース（独自カリキュラム・1980年から）
  継承語コース（独自カリキュラム・1995年から）
    高等部永住生クラス（1995年から現在）
    小学部パイロットクラス（2002－2004年）
    中等部選択クラス（2003年から現在）
    永住生小・中・高一貫コース（2004年から現在）

【参考】

プリンストン日本語学校
コース概要

2007.6



※日本文化時事コース…基本的に、隔週での開講。

※JASLコース在籍児童の該当学年（参考）

各コース生徒数の推移

学級数	幼稚部	文科省小学部（6）	中等部（3）	継承語小学部（2）	中高部（2）	高等部帰国組（1）	永住組（1）	JFL（4）
2004	51	116	17	9	未開設	7	8	15
2005	51	108	20	12	未開設	7	7	12
2006	51	116	24	13	未開設	6	7	23
2007	51	128	33	10	6	5	6	26
2008	51	118	37	13	7	9	6	26
2009	51	101	38	12	11	10	9	33
2010	51	99	29	15	18	11	10	25

（学級数は2010年現在）

組織・運営面の体制

教育二部門制
（補習校部門から独立したJHL・JFL）

- JHL・JFLは現地責任者・教師の作成する独自カリキュラム
- コース開発資金は経常運営費以外から
（海外子女教育振興財団・NY商工会議所など）
- 多様な背景の教師の参加（校内研修・校外自己研修）

- 補習校の中で継承語コースを確立する利点
生徒の選択・移動の幅の広さ
文科省・JHL・JFLコース教師の相互啓発

↓

日本語の多様性の認識

教師の確保と養成

- 教師の7割は保護者（学校全体）
  就労ビザの問題
  土地柄から公募による人材は集まりにくい
  海外で子育てをした親の経験・視点の重要性
- あらゆる背景の教師の利点を生かす
  多様な個性と背景を授業に取り入れる
  （理科系・特殊支援教育・ビジネス・古典・異文化理解専攻など）
- 教材開発の重視
  1年間の有給開発期間・コース開始後3年間の開発費提供
  校内研修（有給）・自主研修（無給）
  他地域の教師との交流・学会への参加

↓

自立する教師たち

継承語コースのクラス編成と目標

生徒の背景：小学1年生を終えた希望者・JFL・他校からの編入

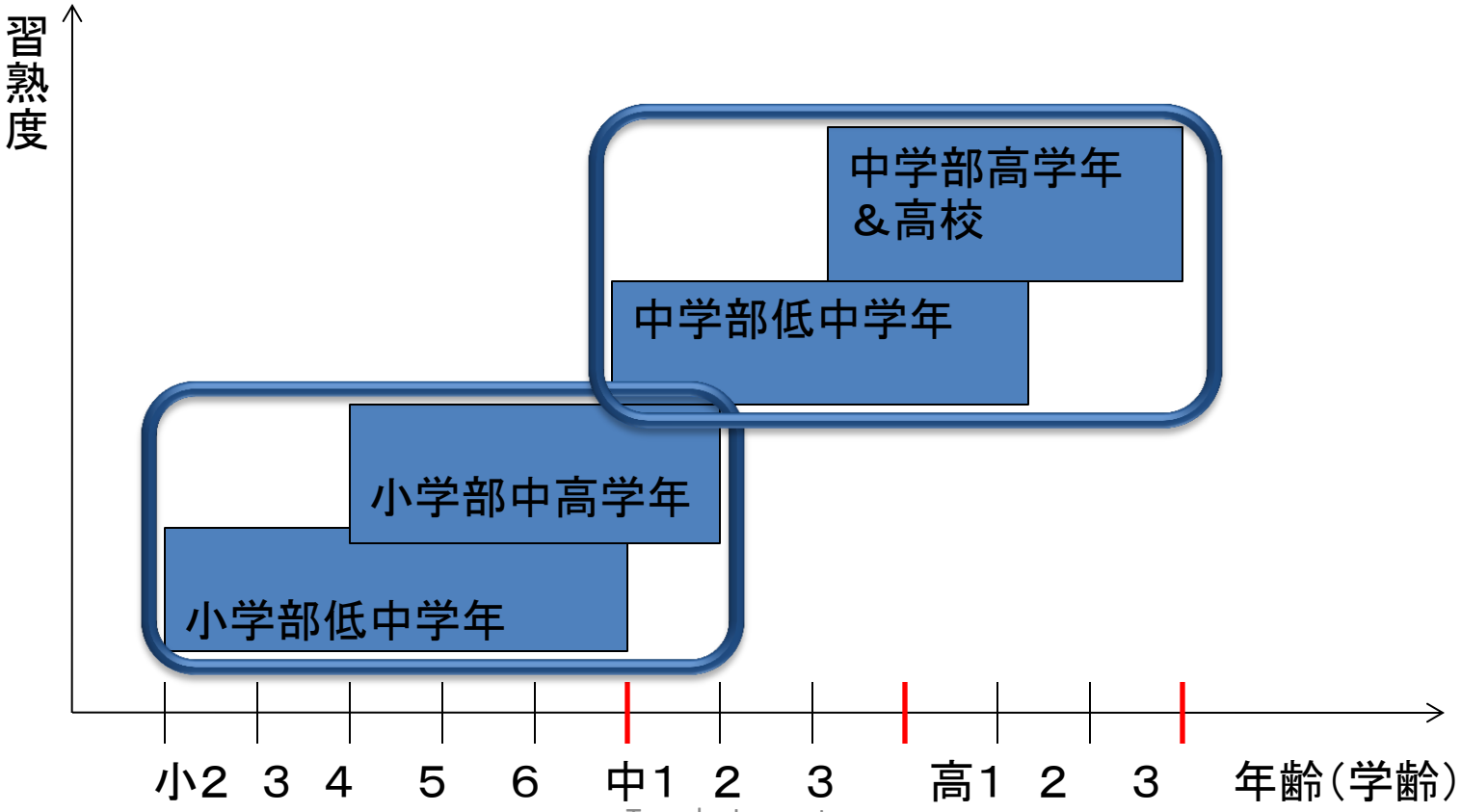
参加の条件：簡単な日常会話の理解・教室での指示が分かる
ひらがな・カタカナの導入が済んでいる

- **小学部** （2年生からの参加・2クラス）
  生活の中の言葉の基本の習得－＞学校・社会で使う言葉へ
  （1）4技能の基礎 （2）漢字 （3）総合・プロジェクト学習
- **中等部** （低学年・中高部クラス）
  社会への入り口・抽象的な内容への拡大・意見の表明
  （1）読解・作文・発表 （2）漢字・語彙 （3）総合・プロジェクト
- **高等部**（永住生クラス）
  社会人としての言語使用をめざす・Critical Thinkingの涵養
  （1）近現代文学 （2）小論文・時事問題 （3）日本史

年齢と言語力を配慮したクラス構成

4技能の習熟度＋社会性・精神面を考慮した基本クラス

1　言葉の力によるグループ分け（漢字の時間）
2　年齢によるグループ分け（総合型プロジェクト）



小学部継承語クラス
対象児童の特徴

- 両親の一方が非母語話者
- 幼児期から日本語環境はある
- 家庭では日本語・英語のみならず、複数の言語を使用する児童もいる
- 日常会話ではJFLに比べて、日本語の基礎に通じている
- 日本国内の生徒に比べると、助詞、接続詞、文末表現などが未習熟
- 4技能のばらつきが大きく、特に「読む」「書く」の能力が不足している

対応１：導入期の補助クラス（1・2年生）
（文科省授業の前の45分間・希望者による選択式）

日付・曜日・季節行事：
カレンダー作り・ 四季の詩

言葉から想像力を広げ、語彙を増やす：
読み聞かせ・紙芝居

知識を広げ、表現力をつける：生き物の観察

文字の認識：ことばさがし

発話の機会を増やす：みんなの前で話す・発表会

対応２：小学部・独立継承語コース
漢字＋ことば＋総合の時間

目的

- 言葉の基礎の確立
- 読み・書き・発表の強化
- 語彙の不足を補う
- 実地体験が不足している児童に多様な教科を取り入れた総合体験
- 現地校で学んだ概念と日本語を結びつける

何を通じて学習するか・補うか

学習活動と分野

音読・読み聞かせ
実験・インタビュー
ニュースの利用　物語鑑賞
校庭の探索・外遊び
劇・ロールプレイ
プロジェクト学習・発表
文化体験・文化比較

地理・歴史・理科
家庭科・図画工作

カリキュラム編成:各週の計画(春の例)

月日	行事	1校時：漢字の時間 （習得度別）	２・３校時：ことばの時間 （習得度別）	４校時：総合の時間 （年齢別）
4/19		季節に関する漢字 （春・夏・秋・ 冬）	物語文 いろいろな本を読もう 「ポレポレ」１／３ 詩の音読 「春の小川」高野辰之	俳句 春の俳句会（散策）
4/26		方向を示す漢字 （東・西・南・ 北）	物語文 いろいろな本を読もう 「ポレポレ」２／３ 詩の音読 「春に」谷川俊太郎	日本文化・工作 絵手紙を書こう
5/3	八十八夜 茶摘み 端午節句		物語文 いろいろな本を読もう 「ポレポレ」２／３ 詩の音読 「茶摘み」手遊びと共に	社会・理科 茶について知ろう 日本の茶、世界の茶
5/10			説明文 「あめんぼはにんじゃか」	理科 表面張力って何だろう

漢字の時間

教科書から独立した
習得度別の教材作り・教材選び

習得度別のステップ学習

習得度別グループ編成
「A・B・C・D・E・語彙習得」
の6段階
AからDで、APJapaneseの
対象漢字を習得

教材

難易度が近い仲間の漢字
新出漢字5文字で、既習漢字
　を組み込む
自作教材、テキスト使用
語彙の導入から、言語ルートを日
米両方の語彙を踏まえて学習

漢字の時間・年間計画(部分)

	仲間	漢字	1年	2年	3年	4年	5年	合計	備考
	体１	全身血皮息	０	０	５	０	０	５	体手足首頭顔毛
	体２	鼻歯指重軽	０	０	５	０	０	５	目見口話食耳聞
	対になる言葉１	始終勝負	０	０	４	０	０	４	初
	ぼく・わたしの一日１	起開去曲向	０	０	５	０	０	５	朝部屋家道角
	ぼく・わたしの一日２	練習配追苦	０	０	５	０	０	５	学校運動
	学校１	登階屋庭庫	０	０	５	０	０	５	学校建物
	学校２	館路横坂服	０	０	５	０	０	５	図書道路
	クラス１	級委員係問	０	０	５	０	０	５	学級
	クラス２	意反対賛実	０	０	５	０	０	５	賛成実けん
	世界１	世界州都県	０	０	５	０	０	５	地球国都市

宿題：習った漢字を練習帳に書く。読み書き各10問のテスト練習。

小学部・ことばの時間

弱い部分の補強をしながら基本をおさえる
教材選択の例

読み教材の活用

物語文・説明文・討論

「みんなで学ぶ国語」
（学校図書）
「光村ライブラリー」
（光村図書）など

言葉の基本・感覚・語彙の強化

「音読集」（光文書院・詩の音読用）
「声に出して読みたい日本語」
「言葉のきまり」（さえら書房）
ことわざ集（独自教材）
読み聞かせ図書・紙芝居
視聴覚教材（インターネット等から）

ことばの時間・年間計画（部分）

	読み教材使用の学習	言葉を補強し語彙を広げる学習		
月日	読解、討論	詩の音読	言葉	読み聞かせ他
	物語文1/3 「空いろのたね」	ののはな	言葉集め （あいさつ）	どろぼう話
	↓物語文2/3 「空いろのたね」	ごあいさつ	のばす音つまる音	ＳＦ永久パン
	↓物語文3/3　まとめ 「空いろのたね」	かっぱ	は・を・へ	紙芝居 ぶんぶく茶釜
	説明文1/3 「ほたるの一生」	びりのきもち	ことわざ導入	落語
	↓説明文2/3 「ほたるの一生」	とる	文を作る （主語と述語）	落語ＤＶＤ
	↓説明文3/3　まとめ 「ほたるの一生」	私と小鳥と鈴と	音を表す言葉 （擬音語）	日本の笑い話
	討論会 かざりつけはどうする	十二支	言葉集め（正月）	十二支のお話

作文指導例1（小学部低学年）：宿題を使った先生と児童の一言交換

簡単なトピックを、日本語で考え、日本語で書くことに慣れる。親との会話のきっかけ作り。

かぜがはやっています。かぜをひかないようにするには、どうしたらいいでしょうか。

先生は、手あらいをして、うがいをしたらいいと思います。

かぜをひかないようにするには、さむい時に外へ出ないのがいいと思います。

作文指導例2（小学部中高学年）
実体験を書く・生徒相互の批評

実践例：<u>形容詞一語で説明を終わらせないために</u>

「暑そうコンテスト・暑さを映画監督の気分で表現しよう！」

<u>生徒作品例</u>：「死ぬほどの暑さ」

- ある夏の日のことだった。たいようがじりじりして、ぼくのうでは日やけして、ひりひりしている。ぼうしをかぶった頭は、むおっとしている。かみの毛の間からこめかみのあたりに、あせがだらだらとながれてくる。マンションが見えてきた・・・かいだんを上り、ろうかを走り、げんかんのとびらを開け、家にとびこむ。れいぞうこを開け、むぎちゃのボトルをつかみ、いそいでコップにそそぐ。「ごくごくごく。」ぼくは生きかえった。

<u>生徒審査表でクラスメートが批評</u>

<u>指導の結果</u>：エピソード中心の文が増え、作文の長さが増した

（作成：小学部担任・山田敏子）

カリキュラム作成
<u>宿題</u>

- 毎回決まった（ルーチン化された）宿題
  - 詩の音読と視写または作詩
  - 授業で学習した読み教材の音読
  - 先生との一言交換
  - ○ ことわざ
  - ○ 視写／短作文／読書からひとつ
  - ○ 音読／意味調べからひとつ
  - ❖言葉補強プリントや調べ学習を年数回

小学部・総合学習の時間

他教科との統合型学習

目的

- 日本語を使った総合体験：
  社会、理科、実験、家庭科などに発展させる
- 日本文化・四季の行事などを学習に取り込む
- 現地校での英語の既習知識を日本語に関連付ける

学習活動例：

- 本・コンピューターの使用・保護者を巻き込む調べ学習
- 地図帳や写真集を使用するプロジェクト学習
  （「日本の地図」「見て読んで考える地図帳」）
- ユネスコ・ピースパック日本版の多角的な利用

総合の時間・年間計画（部分）

月日	行事	小学部低中学年	小学部中高学年
		春の俳句を詠む： 春をつかまえよう	春の俳句を詠む： 春を探しに散策しよう
	母の日	母の日　カード作り （言葉のきまり）	母の日ー絵手紙を描こう
	子供の日	端午の節句 （説明とかぶと作り）	八十八夜： 茶を知る・茶会
		けんこうな生活 「健康のためにすること」	理科：磁石
		けんこうな生活「救急箱」	理科：磁石利用の工作
		日本の遊び「だるまさん」	社会：北海道地方
		怪談 「教室はおばけがいっぱい」	続・北海道プロジェクト （理科：バター作り）
	父の日	父の日　立体カード作り お父さん自慢のことば	父の日 立体カードに一言添えて

文科省教材から発展させた
プロジェクト学習（小学部・中高部）

<u>導入の意義</u>

- 共通テーマの設定でクラスとしてのまとまりを保つと同時に、多様なアプローチを提供することにより、言語レベルと知的レベルが異なる生徒の個人目標に対応できる
- 多様なメディアの日本語に触れることができる
  読み教材・ビデオ・インターネット
  インタビュー取材・ゲストスピーカーの体験談
- 四技能の総合的な強化が可能
  調べた内容の整理と発表の能力を養う

プロジェクト学習の例

手で食べる、はしで食べる

平和共生

和紙の心

くらしの中の和と洋

もったいない

方言

<u>小中学部の共通テーマ例</u>

衣・食・住
平和と共生
笑いについて

<u>国語からの発展</u>

理科・社会科・家庭科などの総合学習

プロジェクト学習例１（小学部）
「手で食べる･はしで食べる」授業の流れ

国語教科書から読み教材を選択

↓

米を考える（短粒米と長粒米）
理科

↓

米の産地を知る：社会科

↓

米を炊く･握り飯を作る：家庭科

↓

学習発表会（台本から発表まで）

他教科との関連

背景知識の拡大

実生活との関連付け

生活語彙の定着
既存知識を使い
新しい語彙･表現
への発展

「手で食べる･･･」(続)
言葉の基礎:苦手な部分の補強

文末表現
考えを強調　:　～なのです
読み手に問う:どうして～のだろう
～のでしょうか
伝聞:　～といいます
～とされています
書き手の意見:～なのです

接続のことば
対比:　一方、～
付け加える:　また、～
例を示す:　たとえば、～
話題を変える:それでは、～

ご飯　しる物　うつわ
つまむ　(皿に)もる
こぼれ落ちる　持ち上げる
ねばり気
めいめい　それぞれ
(さわった時の) 感覚
じかに (口につける)
(食べ物) そのものの味
ぎょうぎが悪い
便利⇔不便、
つまみ<u>やすい</u>⇔つまみ<u>にくい</u>
食べ<u>やすい</u>⇔食べ<u>にくい</u>

プロジェクト学習例2（小学部）「平和と共生」

自分を伝え相手を理解する

コミュニケーション

共生の概念を引き出すⅠ・Ⅱ

けんか・いじめ

きまり（ルール）

歴史を通じて考える

世界の子どもたち

実社会に目を向ける

戦争・平和

小学部「平和共生」・言語目標とチェック・リスト

1	自分の思いを相手に正しく届ける 声かけをする・発言する	肯定文なのか質問文なのか区別して発言しているか です・ますの文体を使っているか
2	相手の思いを受けとめ、的確に返答する	話の要点をつかみ、返答することができるか 相手の立場を考えて、相手を傷つけない断り方を学んだか
3	自分の経験を思い出して、原因と結果を明確に書き出し、発表する	時系列にそって説明するだけでなく、要点を考えて話をまとめることができるか
4	仮定の言い方ができる（もし～だったら、けんかはおこらなかった）	仮定形が使えるようになったか
5	自分の考えを的確に伝える工夫をする （主語・述語を明確にする）	自分の意見に不足点がないか意識しながら話すことができるか（絵や図を利用して考える）
6	自分の考えを裏付ける （なぜなら、～）	理由を添えて伝える工夫をするようになったか
7	目的を達成するための条件を表現する （そのためには、～）	○○するためにどうしたらよいか考え、その目的と関連付けて表現しているか ぼくは～したいから、そのために～する わたしは～するために、～する

カリキュラムの評価・児童への評価

カリキュラムの評価事項

- ❖言語面の弱い部分を補強できたか
- ❖実地体験が不足している児童が新しい場面やテーマにふれられたか
- ❖多様な教材を使えたか
- ❖現地校で学んだ概念をふまえたか
- ❖一人一人が参加できたか
- ❖児童は楽しんだか

児童に対する評価法

- ❖一人一人の伸びを見る
- ❖子ども自身に評価させる（ふりかえり）
- ❖級友同士評価させる（仲間のチェックリスト）
- ❖ポートフォリオ評価

継承語コース・中学生の課題と対応策

日本語レベルと知的レベルのギャップの拡大

話す：短文の羅列・接続詞が弱い・文末表現が曖昧
　　場面に応じた表現の使い分けが不充分

語彙：日常生活を超えた事象を表す熟語に弱い

作文：表現したい内容はあるが短調な文型反復

課外活動の比重大・親子関係の変化・学習意欲低下

日本語学習の意義を見失いがちな時期

↓

1）アイデンティティーに関わる学習内容

2）日常生活・社会事情に即したテーマ

3）個性に応じた表現の機会を十分に

4）現地校で培った知識につなぐ

対応策1：選択性補助コース
「日本文化時事問題クラス」

時事問題・日本文化を扱った補強クラス
（隔週・放課後45分・選択制・中学3学年合同）

形態：　①ニュース記事を読む・ビデオを見る
②漢字の意味と英語の語源を関連させた語句の確認
③教師が投げかけた質問をもとにディスカッション
④作文（宿題）ー自分の意見をまとめる

テーマ：北朝鮮・大統領選挙・米軍基地・新型インフルエンザ
環境問題・捕鯨・相撲・茶道・ポップミュージック・文楽
挨拶言葉、贈答習慣、日本人大リーガー選手

教材例：　朝日中学生新聞・ジュニアAERA
NHK週刊こどもニュース・Yahooキッズニュース
テレビジャパン文化紹介番組、
JFL教材「日本を読む：中級長文読解練習」（凡人社）
書き下ろし教材

対応策1：選択性補助コース
「日本文化時事問題クラス」

時事問題・日本文化を扱った補強クラス
（隔週・放課後45分・選択制・中学3学年合同）

形態：　①ニュース記事を読む・ビデオを見る
②漢字の意味と英語の語源を関連させた語句の確認
③教師が投げかけた質問をもとにディスカッション
④作文（宿題）ー自分の意見をまとめる

テーマ：北朝鮮・大統領選挙・米軍基地・新型インフルエンザ
環境問題・捕鯨・相撲・茶道・ポップミュージック・文楽
挨拶言葉、贈答習慣、日本人大リーガー選手

教材例：　朝日中学生新聞・ジュニアAERA
NHK週刊こどもニュース・Yahooキッズニュース
テレビジャパン文化紹介番組、
JFL教材「日本を読む：中級長文読解練習」（凡人社）
書き下ろし教材

中高部継承語コース（2）
カリキュラム作成：目的に応じた教材選択

１）文科省検定教科書　（各社の多様な分野から）

「伝え合う言葉」（教育出版）・「国語便覧」（浜島書店）

「新しい科学」（東京書籍）・「中学道徳」（光村図書）

２）日本語の美しさ・伝統文化に焦点をあてた教材

「声に出して読みたい日本語」（草思社）

３）大学用JFL教材（日本を外から見る視点）

「日本を知ろう：日本の近代化に関わった人々」

（アルク2001）

４）読み教材から多様なメディアへ拡大させる

DVD　・　Youtube　・　ゲストスピーカーの招待

中高部継承語コース・カリキュラム編成（部分）

	漢字	語彙表現	総合国語	総合国語
	16章	詩 「春」 谷川俊太郎	「木箱の鉛筆」	
	17章	俳句をつくろう 春にちなんで	低学年との合同授業 自己紹介「私は誰でしょう」	
	18章	時事問題	「木箱の鉛筆」	
	19章	2分間スピーチ 「日本の家」	「クジラたちの声」	
	20章	「クジラたちの声」	「クジラたちの声」	保護者懇談会
	21章	時事問題	作文添削 個別指導	「クジラたち・・」
	22章	時事問題	中学合同ディベート「制服の賛否」	

国語教科書を発展させた授業例 （1）
「クジラたちの声」『国語1』（光村図書）

1/5	目的： 既存知識の確認 読み教材（「クジラたちの声」）の導入 活動： ①教師の発問をもとに話し合う 前年度使用教材からクジラの生態を思い出す ドキュメンタリー“TheCove” について話す ②教師の通読・再読で生徒は読み仮名をふる
2/5	目的： 読み教材の理解を深める 活動： ①語句の確認－漢字と英語の語源の共通性 ②多様なクジラの声を聞く (視聴覚教材） ③音読

「クジラたちの声」（続）

3/5	目的：　読み教材からことばの仕組みを理解する 活動：　①語句テスト　（漢字の読みと英語の意味） ②接続語・文型を書き出し、意味の確認（英訳可） 「では」「しかも」「ということになった」「いわば～だろう」 ③短文作り　→　発表　→　仲間のフィードバック
4/5	目的：　読み教材の要点を取り上げ、感想を話し合う 活動：　①音読 ②意味段落の要点を書き出す ③教材に対する考えを述べ合う
5/5	目的：　読み教材から視聴覚メディアへ拡大 教材：　“The　Cove”（シホヨス監督　2009）予告編(英語） 捕鯨に関する日本のニュース（YouTubeから） 活動：　イルカ漁、捕鯨に対する意見の交換

教科書を発展させた授業例（2）：平和と共生
「被爆の実態から多角的に学ぶ」プロジェクト

導入 （1校時）	戦争について知っていることの確認 現地校で得た既存知識をもとに話し合い
歴史 背景理解 （１校時）	戦争についての多様な視点を取り上げる 『新しい社会：歴史』（東京書籍・現代史の部分） ”Living Under the Cloud,” TIME 2005.8.1 *The American Vision*. Glencoe 2003
教材購読 （３校時）	教科書から「碑」の購読 （『新しい国語1』 東京書籍） 教師の範読・語句を書き出す(日本語/英語の定義） 生徒音読・内容確認・感想話し合い
文献紹介 （1校時）	調べ学習開始　　参考図書の展示と紹介
DVD鑑賞 （１校時）	『ヒロシマ･ナガサキ』 (岩波DVDブック Peace Archives 立命館大学国際平和ミュージアム監修 安斎育郎編 2007） 話し合い

「被爆の実態から多角的に学ぶ」プロジェクト（続）

体験者講演 (2校時)	話し手への質問を事前に考え、書き出す 被爆者の話を聞く・感想を話し合う
ビデオ鑑賞 （２校時）	第五福竜丸に関するドキュメンタリー (「その時歴史が動いた　第351回」NHK 2009) 語句を書き出す・感想を話し合う
インビュー	戦争体験者にインタビューする まとめを書く　（夏休みの宿題）
ポスター発表 (1校時)	保護者・中等部低学年を招待しポスター発表 聞き手はフィードバック用紙に記入 発表の後で質疑応答
振り返り (1校時)	お互いの発表のフィードバックをもとに どのような気づきがあったか話し合う

「平和と共生」
生徒の選んだ課題と反応

1. <u>学習意欲の増大</u>
   生徒A:「佐々木禎子の生涯」
   「サダコ」に大きな関心
   記録としての児童文学に注目

2　<u>他教科との連携</u>
   生徒B:「原爆の科学」
   「戦争では、すごい決断
   を簡単にしてしまう」

3　<u>アイデンティティーとの関連</u>
   生徒C:「被爆者の体験に学ぶ」
   「真珠湾の時はアメリカに
   申し訳ないと思うし、広島では
   日本に申し訳ないと思ってしまう」

課題と反応（続）

４．視点の比較

生徒D:「トルーマンの決断」

「太平洋戦争に関する日本の視点を初めて知った」

５．現代社会との関連づけ

生徒E:「オバマと核兵器」

「自分ができることとして（getting involved）、知ったことを伝える責任があると思う」

６．関連語句・表現力について

「発表をして自分の英語力と日本語力の差に気がついた」

意欲の増大・語彙力の向上

参考文献

- 岡崎敏雄（2005）「年少者日本語教育と母語保持－日本語・母語相互育成学習における学習のデザイン－」鎌田修他（編）『言語教育の新展開－牧野成一教授古希記念論文集』ひつじ書房　383－397
- 片岡裕子・越山泰子・柴田節枝(2005)「アメリカにおける補習校の児童・生徒の日本語力及び英語力の習得状況」国際教育評論第２集
- カルダー淑子（2008）「補習校における母語支援」母語・継承語・バイリンガル教育（MHB)研究会夏季研究大会予稿集『バイリテラス・バイカルチュラルの育成を目指して－実践と課題－』 28-37
- カルダー淑子(1998)「在米の長い補習校高校生のための教材開発と授業プラン」東京学芸大学海外子女教育センター研究紀要　第９集
- 川上郁雄（２００９）『海の向こうの「移動する子どもたち」と日本語教育』明石書店
- 栗原祐司・森真佐子（２００６）『海外で育つ子どもの心理と教育－異文化適応と発達の支援』金子書房
- 佐藤郡衛・片岡裕子（編）（2008）『アメリカで育つ日本の子どもたち－バイリンガルの光と影』明石書店
- ダグラス昌子（2006) 「継承日本語学校カリキュラムデザインの理論的枠組みの構築に向けて」ICJLE NY 発表資料
- ダグラス昌子・片岡裕子・岸本俊子(2003)「継承語校と日本語補習校における学習者の言語背景調査」国際教育評論１.
- 中島和子（２００１）『バイリンガル教育の方法－12歳までに親と教師が出来ること（増補改訂版）』アルク
- 中島和子・鈴木美知子（編）（1997）「継承語としての日本語教育－カナダの経験を踏まえて－」カナダ日本語教育振興会

参考文献（続）

- プリンストン日本語学校（編）『実践報告書－多様な言語背景をもつ児童生徒達の教育課程と運営について－プリンストン日本語学校での取り組み』 プリンストン日本語学校
- 箕浦康子（2003）『子供の異文化体験（増補改訂版）』新思索社
- モイヤー尾間康子（2005）「多様化する子どもたちへの対応－多様化するニーズ－日本人学校・補習授業校への新しい課題」月刊海外子女教育2005年3月号
- 森美子 (2005).「二言語のはざまで育つ補習校の子どもたち」鎌田修他（編）『言語教育の新展開－牧野成一教授古希記念論文集』ひつじ書房　425－446

- ACTFL （1999）*Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century* . National Standards for Foreign Language Education Project.
- Brinton, D., Kagan, O., & Bauckus. S. (2008) *Heritage Language Education;A new Field Emerging*. New York; Routledge.
- Garcia.O.(2009). Bilingual Education in the 21st Century; A Global Perspective. West Sussex, UK: Wiley-Blackwell.
- Hadley, O. (1993). *Teaching Language in Context,* 2nd Ed. Ch.8. Boston: Heinle & Heinle
- Kondo-Brown, K. (2006).*Heritage Language Development: Focus on East Asian Immigrants.* Amsterdam, NLD: John Benjamins Publishing Company.
- Payton, J., Ranard, D., & McGinns, S.(2001) *Heritage Languages in America; Preserving a National Resource.* Center for Applied Linguistics & Delta Systems Co.